

宮内省御猟場と朝香宮・北白川宮

長谷川 巴南

1. 雲ヶ畑の宮内省御猟場

雲ヶ畑を中心とする宮内省御猟場は明治 22 年（1889）に「愛宕御猟場」として成立後、翌年に一度廃止された。明治 38 年に再設置され、明治 41 年には「京都御猟場」と改称、大正 12 年（1923）まで存在した。再設置を願い出た波多野富之助は、御猟場職員の長である監守長を務め、御猟までの準備や実施を取りまとめた。朝日新聞大正 8 年 11 月 4 日朝刊にも、鍋島主猟官と波多野監守長が一週間に渡り御猟場の検分を実施した記事があり、鹿の増加による山林の被害を訴え、検分の際に捕獲している。

2. 皇族の狩猟参加

御猟場は近代雲ヶ畑を語る上で欠かせないものであり、皇族、政府要人、軍人、外賓接待の場として活用された。大正 8 年～10 年には、朝香宮鳩彦王（1887～1981）と北白川宮成久王（1887～1923）が、雲ヶ畑の京都御猟場で開催された御猟に参加した。大正 8 年の「往復綴」（波多野六之丞家文書（以下同）8-1）では、主猟官から波多野富之助宛の手紙に「来十三日ヨリ十日間、其御猟場二



写真 1 波多野富之助宅前に立つ朝香宮、大正 10 年 1 月（波多野六之丞家文書 追加 1-18）。

於テ獸狨被仰出、主狨官其他左記出張相成候二付、諸事準備可有之」とある。「左記」には出張者として伊達宗陳・鍋島精次郎をはじめとする主狨官と主狨寮職員計 13 人と共に、北白川宮成久王、朝香宮鳩彦王、当時陸軍中將の尾野実信、立花小一郎の名がある。この知らせを受けて、波多野富之助は宿の手配をしたり、差し入れの羊羹を用意したりしている。また、朝香宮は波多野富之助宅、北白川宮は安井治三郎宅にて宿泊している。

北白川宮成久王は大正 10 年、朝香宮鳩彦王は同 11 年にフランス留学をする。翌 12 年フランスでの交通事故のため北白川宮は落命、朝香宮も重傷を負う。雲ヶ畑での御猟は日本での良き思い出として残ったのであろうか（写真 3）。

		朝香宮鳩彦王	北白川宮成久王
大正 8 年	1 月 16 日	参加	参加
	1 月 17 日	牡鹿 3 頭	参加
	1 月 18 日	牡鹿・牡猪各 1 頭	牡猪 1 頭
大正 9 年	1 月 17 日	参加	牡鹿 2 頭
	1 月 18 日	参加	牡鹿 2 頭・牡猪 1 頭

[illegible]

写真2 御狩獵物一覧、大正8年1月17日・18日（波多野六之丞家文書8-17）。
中央に朝香宮、左端に北白川宮の記述がある。